

会津若松市

まち・ひと・しごと創生包括連携協議会

令和元年5月28日



「スマートシティ会津若松」に関する 最近の取組

「スマートシティ会津若松」に関する最近の取組

国務大臣による市内視察



- 梶山前地方創生大臣（H30.8.20）や野田前総務大臣（H30.9.21）が本市を訪問し、意見交換を行った。
- 施工中のスマートシティAiCTや市内サテライトオフィス、会津大学等を視察。
- その他にも多数の国の機関や他自治体からの視察を受け入れている。

総務省「デジタル変革時代におけるICTグローバル戦略懇談会」



総務省ホームページ「大臣・副大臣・政務官の動き」より

平成30年12月～

- 国際・技術の2つを柱に日本のICT戦略を検討する同懇談会において、地方自治体首長としての立場で議論に参加。
- 地場産業におけるICT活用のさらなる普及の重要性などについて、提言を行ってきた。

今年4月22日 スマートシティAiCT 開所式

ICTオフィスエリアの通称は
「スマートシティAiCT(アイクト)」
に決定



ICTオフィス環境整備事業の目的と概要

交流棟

飲食店などの誰でも使える機能を備え、オフィス棟入居企業や会津大学、地元ベンチャー等のオープンイノベーションの拠点となる。

入居企業、会津大学、地元企業等のイノベーションスペース

鶴ヶ城前の立地を生かした賑わい創出

入居企業等と市民による先進的な実証実験の場



3階 コワーキングスペースもご利用ください。

オフィス棟

首都圏等から移転するICT・IoT関係企業を対象としたオフィスであり、全体で500人規模の入居が可能。

インターンなど、若手ICT人材にとっての実践環境の充実

会津大生をはじめ地元の若手人材の雇用の受け皿

入居企業同士による新たなビジネスの創出

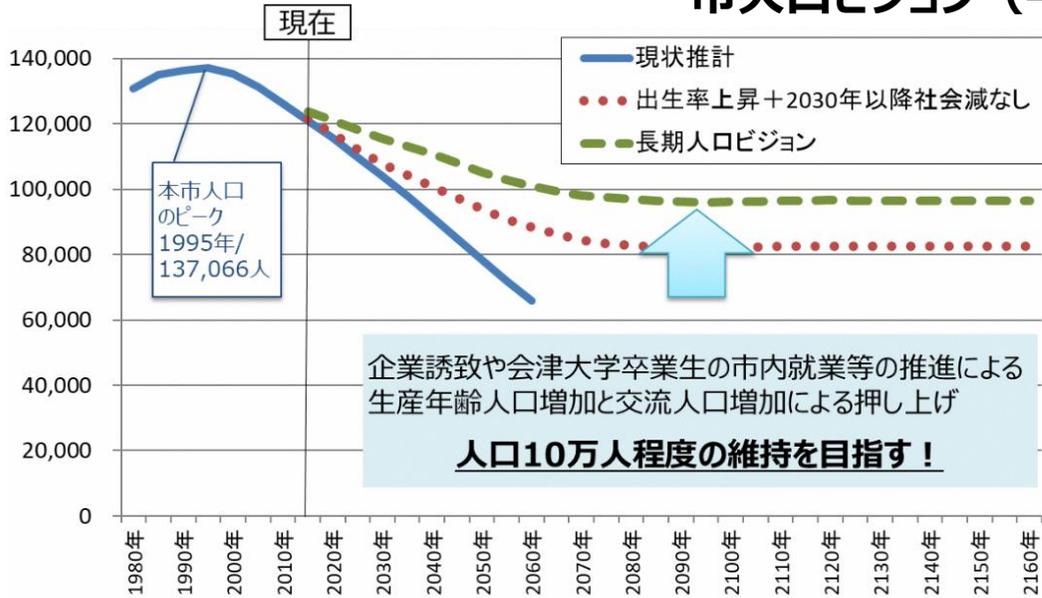
日本・世界において先端のビジネスやサービスを、会津から発信！



**第2期総合戦略の策定と、
策定に向けた事業提案のお願い**

会津若松市の人口動態と地方創生の取組

市人口ビジョン（平成27年4月）



<目標>

- ① 合計特殊出生率を2040年までに2.2まで上昇させることを目指す
- ② 2030年を目途に社会動態±0を目指す（人口の流入促進と流入抑制）
- ③ ICT（会津大学）や観光を核とした交流人口の増加を図る

会津若松市における近年の人口動態（人）

年次	人口	自然動態			社会動態		
		出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成27年	124,062	941	1,505	△564	3,694	4,191	△497
平成28年	122,882	893	1,604	△711	3,585	4,069	△484
平成29年	121,925	892	1,514	△622	3,706	3,909	△203
平成30年	120,841	839	1,553	△714	3,542	4,078	△536

毎年、約1,000人ずつ減少

今年度以降の
流入促進・流出抑制効果に期待

会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

長期的に10万人程度の安定人口の実現による地域の活力維持

人口
ビジョン

- I. 合計特殊出生率を2040年までに2.2まで上昇させることを目指す
- II. 2030年を目途に社会動態±0を目指す（人口の流入促進と流出抑制）
- III. ICT技術（会津大学）や観光を核とした交流人口の増加を図る

地方版
総合戦略

5つの基本戦略を核としてまち・ひと・しごとの創生をし、
地域の豊かさを市民や本市を訪れた人々が実感できるまちを目指す

会津大学を中心とした
アナリティクス産業
ICT関連企業の集積

- ▶アナリティクス・セキュリティ人材の育成
- ▶アナリティクス産業・ICT関連企業の集積

歴史・文化観光や
産業・教育観光による
地域連携と交流促進

- ▶データに基づく観光施策の推進
- ▶外国人誘客に向けたプロモーション施策
- ▶未来人材育成の推進

既存産業・資源を
活用した効率化、
高付加価値化による
しごとづくり

- ▶バイオマス発電と林業の活性化
- ▶エネルギーの地産地消の推進
- ▶農業の高付加価値化の推進(スマートアグリ)

伝統とICTを
融合させた人・企業が
定着したくなるまちづくり

- ▶歴史・伝統を活かしたまちなかの魅力的な景観づくり
- ▶ICTを活用した市民生活の利便性の向上
- ▶都市OSの形成

結婚・出産・子育て
支援と
教育環境の整備

- ▶結婚・出産・子育て支援の推進
- ▶ICTを活用した教育環境の拡充
- ▶デジタル未来アート事業

データ×アナリティクス＝スマートシティ会津若松

市の推進する各事業データ収集・基盤環境整備の推進

第2期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

第1期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(平成27年度～令和元年度)



第2期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(令和2年度～令和6年度)

これにあたり、構成団体の皆様には次期計画に盛り込む候補事業の提案をお願いしたい。

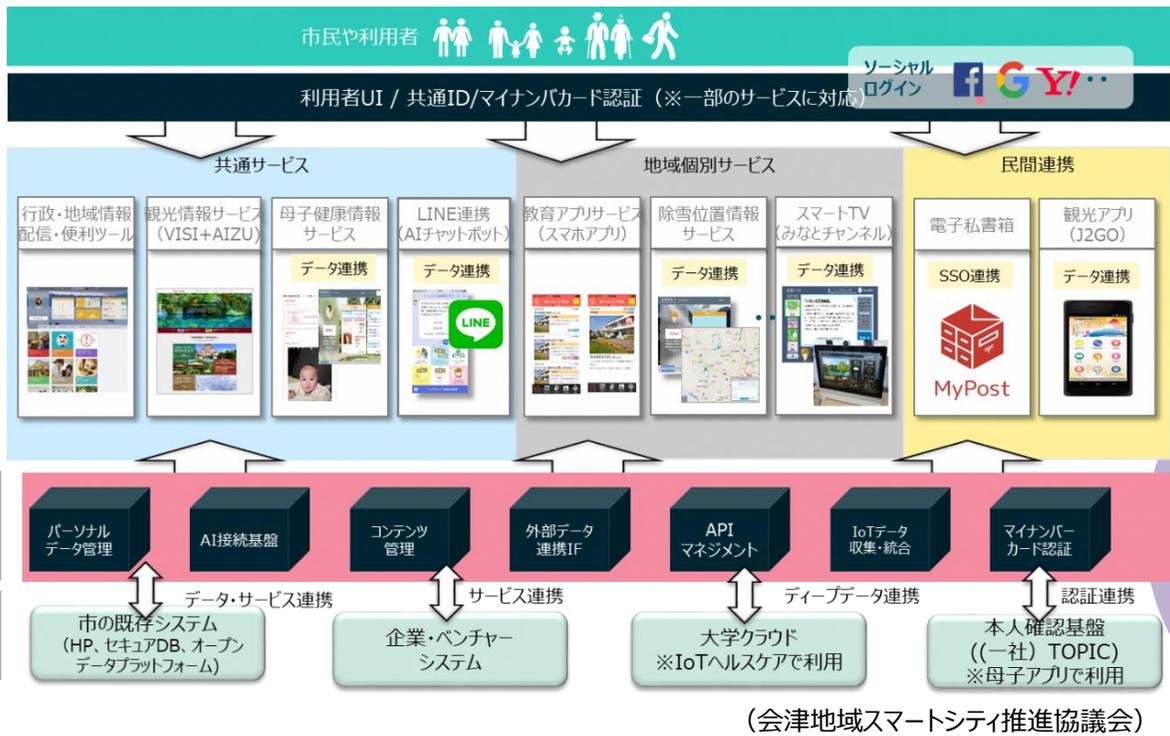
(6月末まで)

ご提案いただきたいテーマについて

＜本市が今後、特に注力していきたい取組・課題の例＞

① 「会津若松＋(プラス)」を中心とするデジタル情報プラットフォームの高度化や、同PFと連携した新たな市民向けサービス

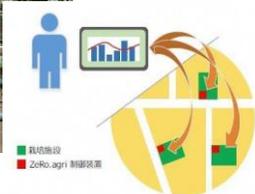
デジタル情報プラットフォーム (全体像)



- このような既存のプラットフォームを活用しながら、機能追加や外部サービス連携拡大することに新たなサービスを創出し、本市をモデルとして他地域にも展開していきたい。
- 将来的には、証明書等の電子申請や庁内業務のBPRなどについても検討したい。

② 農作物の品質の安定化や作業の効率化に加え、スマート農業の普及をより促進するためのソリューション

次世代型養液土耕システム（ゼロアグリ）



対象作物
トマト、キュウリ、アスパラ、
トルコギキョウ、イチゴ

- 【H27】 3品目, 3経営体, 41.8a
- 【H28】 2品目, 2経営体, 31.8a
- 【H29】 4品目, 4経営体, 75.1a
- 【H30】 2品目, 4経営体, 55.1a
- 【R1】 6経営体に導入予定

現在、約204aに導入完了
(市内園芸用施設面積の約4%に相当)

栽培支援ドローン

対象作物 水稻・大豆
【R1】 4経営体に導入予定



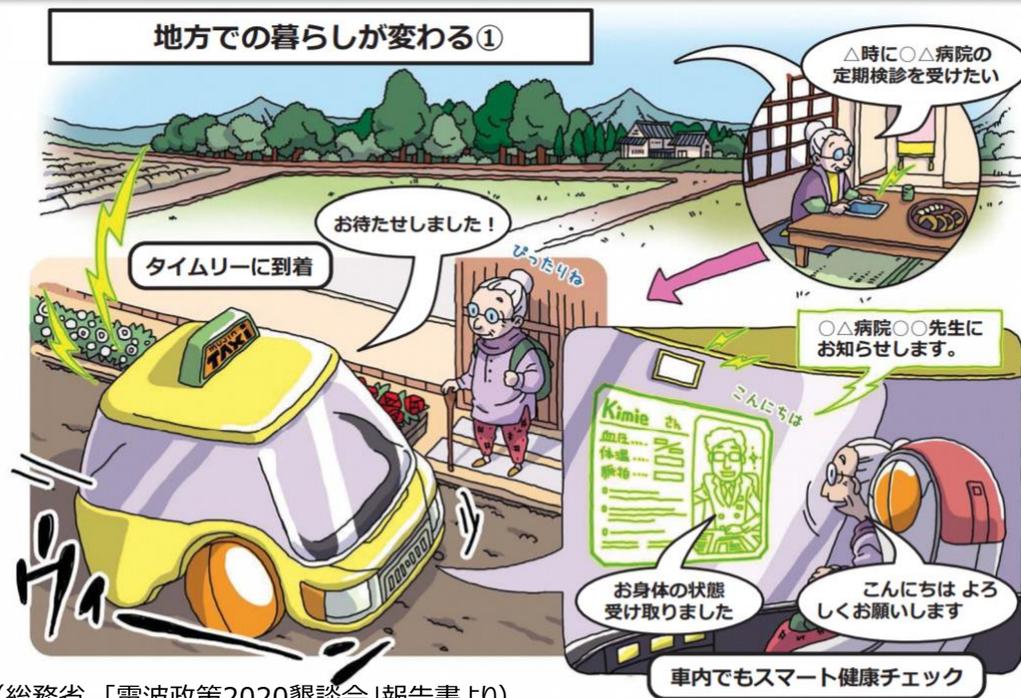
水田の水管理システム



対象作物 水稻
【H30】 4経営体・計36か所に導入
(約1,204a)
【R1】 4経営体に導入予定

- さらなる普及拡大を進めるため、自己投資により整備できるような初期コストの低減が課題。
- 効率的なスマート農業のビジネスモデルを確立し、「高品質な会津の農作物」のブランディングに役立てていきたい。

③ 過疎化や高齢化にも対応し、 地域住民の移動手段を支える技術やサービス



中山間地域生活支援システム
みなとチャンネル



通信網の整備



オンライン診療



ロボット/ドローン配送



etc.

- 過疎化や高齢化にも対応し、免許返納後の高齢者などが不自由なく生活するための交通手段が必要。
- 完全自動運転が実現するまでの間においても、小型モビリティや運転アシスト機能、カーシェアリング等の組み合わせなどにより、早急に対策が必要。
- モビリティやオンライン診療、物流サービス等を組み合わせ、「住み続けられるまち」へ。

- ④ その他、前述の分野以外においても、人口減少対策や地域の活性化につながるような、幅広い提案をいただきたいと考えております。

《その他の提案内容の例》

- ・移動：運転支援・自動走行、データ活用による交通量管理・駐車場管理 など
- ・物流：自動配送、ドローン配達 など
- ・支払い：導入しやすいキャッシュレス対応システム など
- ・行政：マイナンバーカードを活用したオンライン申請の推進、窓口における外国語対応 など
- ・医療・介護：AI を活用した医療業務の負担軽減、データ活用による予防医療の促進 など
- ・教育：AI を活用した教育支援、情報活用能力の向上、情報セキュリティ人材の育成 など
- ・観光：自動翻訳システム、観光客への二次交通情報の提供 など
- ・環境・ゴミ：データ活用によるスマートシステム など
- ・防災・安全：除雪業務支援、市民への災害情報配信、公共施設維持管理の効率化 など

事業提案に関する問い合わせ先

地方創生に係る事業提案についてのお問い合わせは、
企画政策部企画調整課までご連絡ください。

終わりに

皆様の組織が有する優れた技術や人材、知見等を
集積することで、ここ会津若松から
より良い地域とより良い日本を実現するため、
これからも多大なるご支援とご協力を
よろしくお願い致します。

